

第 6 章 まとめ

6-1 構想改定のまとめ

本構想に基づき、平成 37 年度（目標年度）に生活排水処理人口普及率 100%を目指して、生活排水処理施設の計画的な整備を進めることにより、県内河川の水質は、着実に改善されることが明らかとなった。

平成 20 年度（基準年度）では、BOD3mg/L 以下の河川の割合が 72%であった。しかし、本構想の中間目標年度である平成 32 年度には、99%と飛躍的に改善し、平成 37 年度には、100%となると予測された。

また、県及び市町村は、財政投資のあり方を検討し、より効率的な生活排水処理施設の整備に努める必要がある。本構想策定による効果として、生活排水処理施設の概算建設費は平成 16 年構想と比較して年平均で 26.7%の縮減が見込まれることが示された。

今後は、本構想が目指す生活排水処理人口普及率 100%を早期に達成するため、構想の進行管理に努め、県及び市町村が連携して生活排水処理施設の整備を計画的かつ積極的に進めていくことが重要である。

6-2 埼玉県生活排水処理施設整備構想図

埼玉県生活排水処理施設整備構想図は、29 ページから 35 ページに示すとおりである。